

果樹 8月上旬の巡回調査結果の概要について

このことについて、以下のとおりですので、病害虫防除指導の参考にしてください。

【東北信】 巡回日 8月4、6、7、8日

1 りんご（東信3ほ場、北信8ほ場）

- (1) キンモンホソガは、東信1ほ場、北信6ほ場で寄生葉がみられ、被害葉率は0.2～4.5%だった。
- (2) リンゴハダニは、東信3ほ場、北信7ほ場で成若幼虫の発生がみられた。
ナミハダニは、東信3ほ場、北信8ほ場で成若幼虫の発生がみられ、うち北信2ほ場は10葉当たり虫数が100頭を超え、多発傾向であった。
リンゴサビダニの発生はみられなかった。
高温乾燥傾向が続くとする予報のため、ハダニ類の発生が増えることが予想されるので、園地の発生状況に注意し、密度が増加する前に防除を行う。

2 ぶどう（東信1ほ場、北信5ほ場）

- (1) さび病の発生はみられなかった。
- (2) ベと病の発生はみられなかった。
- (3) 黒とう病（図1）は、定期巡回ほ場ではみられなかったが、北信の調査対象外ほ場では発病を観察した。
- (4) チャノキイロアザミウマの被害葉はみられなかった。

3 もも（東信2ほ場、北信4ほ場）

- (1) 黒星病の発病果はみられなかった。
- (2) せん孔細菌の発病果はみられなかった。
- (3) 灰星病は、東信1ほ場でみられ、発病果率は0.3%であった。
- (4) モモハモグリガの被害葉、カイガラムシ類の被害果はみられなかった。
- (5) ハダニ類の寄生（図2）は、東信1ほ場、北信4ほ場でみられ、寄生葉率は1.7～98.3%であった。
北信の2ほ場で寄生葉率が80%を超えていた。
- (6) クビアカツヤカミキリ、モモヒメヨコバイの寄生はみられなかった。



図1 ぶどうの枝の黒とう病斑
(北信地域・調査対象外ほ場)



図2 ハダニの多発したももの葉
(北信地域)

【中南信】 巡回日 8月4、5、6日

1 りんご（南信5ほ場、中信5ほ場）

- (1) キンモンホソガは、南信1ほ場、中信2ほ場で寄生葉（マイン）がみられ、被害葉率は0.3～0.8%であった。
- (2) リンゴハダニは、南信4ほ場、中信2ほ場で成若幼虫の寄生がみられ、うち南信2ほ場は10葉当たり寄生虫数が100頭以上で、多発傾向であった。
ナミハダニは、南信4ほ場、中信3ほ場で成若幼虫の寄生がみられ、うち南信1ほ場は10葉当たり寄生虫数が100頭以上で、多発傾向であった。

2 なし（南信6ほ場、中信1ほ場）

- (1) 吸蛾類の寄生は、みられなかった。
- (2) リンゴハダニは、南信2ほ場で成若幼虫の寄生がみられた。
ナミハダニは、南信3ほ場で成若幼虫の寄生がみられた。

3 ぶどう（南信2ほ場、中信3ほ場）

- (1) さび病の発病はみられなかった。
- (2) ベと病（図3）は、中信1ほ場で発病がみられ、発病新梢率は10.0%、発病葉率は2.0%であった（図3）。
- (3) 黒とう病の発病はみられなかった。
- (4) チャノキイロアザミウマの被害葉は、みられなかった。



図3 ぶどうのべと病（中信地域）

4 もも（南信1ほ場、中信1ほ場）

- (1) 黒星病の発病果はみられなかった。
- (2) せん孔細菌病はみられなかった。
- (3) 灰星病はみられなかった。
- (4) モモハモグリガの被害葉、カイガラムシ類の被害果はみられなかった。
- (5) ハダニ類の寄生はみられなかった
- (6) クビアカツヤカミキリ、モモヒメヨコバイの寄生はみられなかった。

5 かき（南信3ほ場）

- (1) 炭疽病の発病果、円星落葉病の発病葉はみられなかった。
- (2) カキクダアザミウマ、カキノヘタムシガ、ハマキムシ類、フジコナカイガラムシの被害果はみられなかった。

【侵入警戒病害虫】

りんご、なしの調査ほ場において、火傷病、コドリリングの発生はいずれもみられなかった。